

精神看護 第18巻 総目次

2015年 1号(=1月号)、2号(=3月号)、3号(=5月号)、4号(=7月号)、5号(=9月号)、6号(=11月号)
表示は、「題名：著者，号数，開始ページ。」

特集

[1月号] あっと驚くACTです

「暮らしを支える」ってこういうことだったのね：近田真美子，1，2.

[3月号] 地域との「連携」がうまい組織は、こんな手法を使っている

病院と地域が連携できる仕掛けはもうできている：望月明広，2，124.

再入院率3.6%——「多職種チーム医療」による「包括的精神科医療」「集団決定機構」：井原里美・新田政文・土井久宗，2，134.

地域連携パス——出雲圏域の医療と地域をつなぐ共通ツール：東美奈子，2，138.

多彩な顔を持つ病院と地域をつなぐ——サービスステーション駒木野：山口多希代，2，148.

入院時の経過が説明しやすくなる——入院時カンファレンスシート：高田久美，2，153.

[5月号-1]

A子がWRAPを作ったら：藤田茂治，3，218.

[5月号-2] 自分の病院に合った、持続できるクリニカルパスの作り方

特集のねらい：伊藤弘人，3，259.

大きな流れで理解しよう——今、クリニカルパスが注目される理由：伊藤弘人・堀口寿広，3，260.

(1) 峡西病院——〈特徴〉時間軸の各段階を、「甲州弁」で表現：浅川理・塩沢健雄，3，268.

(2) 桶狭間病院藤田こころケアセンター——〈特徴〉SDM、評価尺度、電子カルテの導入：藤田潔・石川剛，3，275.

(3) 土佐病院——〈特徴〉実臨床に合わせて改定を繰り返して十数年：下原貴広・須藤康彦，3，280.

(4) 牧病院——〈特徴〉クライシスプランの要素を含んだ地域連携パス：佐々木香月・牧聡，3，286.

これなら適用可能——長期在院者へのクリニカルパス：堀口寿広，3，292.

[7月号-1] ストレngth・マッピングシートをケアに使ってみて、どうでしたか？

使ってみた経験を報告します：互優，4，340. / 鈴木敦子，4，344. / 中嶋康子，4，349. / 佐野睦美・加藤京子・植松小夜子，4，352. / 後藤優子・勝部真由・田巻宏之，4，358.

皆さんから出されたストレngth・マッピングシートに問する質問：萱間真美，4，364.

[7月号-2] 新人さんにも伝えたい。精神科看護に必要な倫理的な視点

ちょっとみんなでエシカらない？：吉井ひろ子・杉原正美・田邊友也・浮田裕介，4，379.

[9月号] 学校の先生に聞きました。精神看護学をどのように工夫して教えていますか？

教員は、「看護」「精神看護」「自分自身の看護」という3つの層を語る必要がある：清水隆裕，5，444.

仮想・訪問ステーションを作ろう：林谷啓美，5，450.

卒業生による寸劇を交えた講義：田中浩二，5，455.

研究会を継続開催。学生と新人がベテラン看護師の声を聞

けるチャンスを作る：磯野洋一，5，460.

SST、WRAP、箱庭療法を取り入れて：櫛谷由佳，5，464.
動画(ビデオ、YouTubeなど)の活用：矢山壮，5，467.

[11月号] 自分を傷つける行為が止まらない人—医療者はどう捉え、かかわればいいのか

この分野の援助者は、知恵とスキルを共有し、仲間を作る必要がある：松本俊彦，6，540.

綱引きにならない治療導入のための動機付け面接法：佐久間寛之，6，545.

自傷をとりあえずしのぐための認知行動療法における「応急処置」：伊藤絵美，6，550.

治療関係における「安全さ」を求めて——トラウマ臨床における配慮：宮地尚子，6，557.

(関連研究)女性の薬物依存症者がかかえるトラウマの問題と、それに対する援助：森田展彰，6，562.

特別記事

知っておきたいてんかんのこと——催奇性との関連も含めて：石田重信・本岡大道，1，66.

当事者からのメッセージ「てんかんと家族の支え、薬、出産のこと」：島本真規，1，77.

さらに見えてきたオープンダイアログ——フィンランド、ケロブダス病院見聞録：下平美智代，2，106.

ゼプリオン投与中の死亡症例報告を超えて——持効性注射剤のメリットと安全対策を考える：肥田裕久，3，302.

「行動障害」から「チャレンジングな行動」という理解へ——てんかん患者のトランジション問題のなかで：谷口豪，3，318.

武井麻子先生 最終講義——感情と看護と私 アウエーの生き方：武井麻子，4，402.

オープンダイアログは精神科医療に何をもたらすか——斎藤環氏による講演録：斎藤環，5，473.

体験レポート

イタリアのグループホームで当事者と共に過ごして見えてきたもの：吉田育美，1，28.

対談

意志と責任の考現学——「中動態の世界」連載を終えて：國分功一郎・上岡陽江，2，190.

座談会

精神保健福祉法改正で、現場にどのような影響が出ていますか？：東美奈子・島内美月・藤森祥子・渡辺とよみ，1，48.

「3か月で退院」の時代に、どのような薬を選ぶべきなのか——特に「鎮静」に対する考え方をめぐって：澤中政道・野中英雄・佐藤貴子，3，244.

投稿

私の幻聴応援団：北村庄子，4，392.

「急に殴られる」「箸・鉛筆などで突かれる」への対処を武道に学ぶ：永野吉昭・笹本洋志，5，514.

寄稿

CNSである私は、独立して企業を起こしました——ぜった

い地域へ！：中野真樹子，4，420。
[編集者と一緒に取材に同行して]同じCNSとして私が感じたこと：川田陽子，4，428。

研究

WRAP式看護計画を用いた訪問看護の効果について——操作的言動を繰り返す適応障害の事例から：小瀬古伸幸，2，163。

統合失調症患者に好意を向けられた精神科男性看護師の感情体験および看護師にとって安全なチーム構築の課題：清水隆裕・入江拓，6，614。

講演録

私が実践している行動分析学を使った看護管理を紹介しす：岡本真知子，2，185。

REPORT

“催眠”を認知科学として研究中の東大大学院生がレポートしてくれました。——ユマニチュードと催眠。その驚きの共通点とは：漆原正貴，2，182。

訪問専門の精神科クリニック、解禁か？「こころのホームクリニック世田谷」に注目する：近田真美子・西田淳志，5，492。

オープンダイアログの対話実践、そして援助者の在り方について：白木孝二，6，588。

メリデン・ファミリープログラム研修を受けて——メンタルヘルスケアの中核に家族を置く：小松容子，6，593。

連載

●**べてる新聞『ばびぶべ』**

(101)：1，102。

(102)：2，214。

(103)：3，334。

(104)：4，438。

(105)：5，532。

(106)：6，628。

●**精神科の患者さんの身体では、何が起きている？／秀野武彦**

(6)「知っているようで知らなかった、身体にまつわる重要事項」：1，87。

●**こうすれば退院できるし、暮らせるし。／東美奈子**

(4)マズローの欲求5段階に沿って丁寧に進める退院支援：1，42。

●**失恋話を聞きまくる男たち。桃山商事／清田隆之**

(4)失恋ホストの現場紹介——「男らしさ」とは一体何なのか？：1，96。

(5)失恋ホストの現場紹介——人はなぜ「復縁」を願ってしまうのか？：2，202。

(6)失恋ホストの現場紹介——“無自覚マザコン男子”の弊害：3，326。

(7)失恋ホストの現場紹介——恋愛における「孤独」と「絶望」について：4，433。

(8)失恋ホストの現場紹介——女性たちを苦しめる「受験型恋愛」とは？：5，526。

(9)失恋ホストの現場紹介——主観的「幸福度」と恋愛の深い関係：6，624。

●**「自殺者の少ない地域」のコミュニケーション力を考察する／森川すいめい**

(3)「気持ちよく全敗させてくれる地域」は確かに存在する：1，61。

●**イネ！その業務改善**

(1)消灯時刻は21時でいいの？——消灯時刻の固定概念を変えた取り組み：菊池ゆかり，5，502。

(2)朝のミーティング形式を一変：小野悟，6，585。

●**ケアする人こそやってみよう当事者研究**

(1)（もういいかげん新人じゃないけれど）——「頼りたい気持ち」の研究：中島裕子，2，172。

(2)「多汗現象」の研究——困った存在から健気な親友へ：小松詩織，6，578。

●**愛か不安か／春日武彦**

(1)「自己ツッコミがやめられなくてつらい」あなたへ。：5，488。

(2)なぜ話す対象は人じゃないとダメなのか：6，604。

●**精神科病床を休止。超長期入院の患者さんをどうやって地域へ？／高田大志**

(1)始まりの時：3，298。

(2)“ない”なら作る：4，429。

(3)医療依存から離れる覚悟：5，498。

●**東日本大震災以来、メンタルヘルス支援を続けています——「心の架け橋いわて」の活動報告**

(1)現地の「今」と、自分自身が参加したきっかけについて：中田信枝，1，56。

(2)続けられている理由：村上裕子，2，178。

(3)「専門職の鎧」を脱ぎ去る：山中浩嗣，3，314。

(4)看護師による支援活動：伊関敏男・岡本典子・田辺有理子，4，396。

(5)「こういうの」を町の人たちと作っていきたい：伊藤亜希子，6，609。

●**武井麻子のOh！それみ〜よ／武井麻子**

(1)『アラバマ物語』——「ものまね鳥」は何の隠喩か？：5，522。

(2)『カポーティ』と『冷血』：6，621。

●**〜吉。**

(5)音吉。：杉山悠，6，596。

●**2回連載 こうすればできる当事者研究**

(1)ホワイトボードにどう書くか：向谷地宣明，6，570。

書評＆書論

『組織のストレスとコンサルテーション 対人援助サービスと職場の無意識』：實田穂，2，201。

『たまきはる』：齋藤陽道，2，210。

『オープンダイアログとは何か』：松本卓也，5，483。

『ナラティブホームの物語——終末期医療をささえる地域包括ケアのしかけ』：長谷川雅美，5，531。

読者投稿コーナーここ掘れかんかん！

豪雪地域での精神科訪問看護：互優，2，160。

外国人の受診者にこうやって対応しています：互優，3，308。

患者さんに桜を見せてあげたい：安藤由紀，4，413。

私がアロマセラピーを習う理由：安藤由紀，5，510。

好きなように生きる：坂口恭平，6，568。

その他

●**こんな取り組みをしています**

総合病院で認定看護師として精神科リエゾンチームに挑戦しています——飯田病院：南風原智子，1，83。

●**ニュース**

リリー賞(精神障害者自立支援活動賞)表彰式がありました：3，312。

「卓球を通して健康寿命に貢献する会」が発足：3，313。

日本多機能型精神科診療所研究会設立大会が開かれる：4，319。

●**viewpoint**

精神看護学実習でウェルカムボードを導入しています：石田正人，5，506。